

大分朝日放送

事業の名称

やさしくて深い天気の話

事業概要

子どもたちが天気予報を入り口に、環境問題、災害、命を守る行動まで考え、学んでいく企画。メディアからの天気情報をいかに活用するか、そしてその重要性がテーマ。

◆実施内容：

- ①気象予報士の出前授業（気象予報士・依田司さん）
- ②防災の専門家の出前授業（大分大学理工学部長・小林祐司教授）
- ③テレビ局見学

◆対象：

国東市立志成学園 5年生 34人

別府市立南立石小学校 5年生 46人

※計6回（各校3回ずつ）の実施事業はすべて大分朝日放送のニュースで紹介

①気象予報士の出前授業

天気情報を生活に役立てるためのポイントから、異常気象が起こっている現実、その根底にある地球温暖化まで掘り下げた。

②防災の専門家（大学教授）の出前授業

情報番組などで使う「めくり」の手法を取り入れ、災害時にメディアから発信される情報をどのように役立てるか、備えの大切さなどをわかりやすく伝えた。

③テレビ局見学

災害発生を想定し、ヘルメットや有事用の原稿を常備しているスタジオをはじめ、局内を見学。天気予報をわかりやすく伝えるさまざまな手法やシステムも体験。各部署では従業員が業務の手を止めて児童の質問に応じるなどした。



◆狙い

天気情報を受け取るだけでなく、自分で読み解いて考えることが、昨今の異常気象を知り、地球温暖化などの環境問題を考えることにつながる。災害には「備え」ができることを学び、そのためには日々の天気情報を読み解く力が役に立つ。さらに、情報を伝える報道の現場を見て、常に、幾重にも備える重要性を体感してもらう。

事業の成果

最も大きな成果は、参加した児童が気象や環境問題、防災などの報道に強い関心を持ち、今後の学習に対する大きなモチベーションとなったこと。各校3回の事業実施で伝えられることは限られるが、もっと知りたい、学びたい、という思いは、これからの自発的な学びにつながっていくのではないかと。

講師からは児童へのメッセージとして、

- ・ 依田司さん「おじいちゃん、おばあちゃんが必要な避難をためらっていたら、みんなが避難を促してあげてね。テレビでどれだけ伝えても、避難が遅れる高齢者が後を絶たない。でも大切な孫からのお願いなら、きっと聞いてくれると思うから」
- ・ 小林祐司さん「当たり前のように当たり前じゃない今の幸せや、自分と自分の大切な人を守るのが防災だよ」

といった児童の心に響くことが多く伝えられた。



児童から寄せられた感想の中には以下のようなものがあった。

- ・ 豪雨災害や温暖化は自分たちの行動が引き起こしていることがよく分かった。
- ・ 天気や災害の情報を正しく理解する力が、命を守ることにつながる。
- ・ 毎朝、天気予報やデータ放送の情報を見るようにしたい。
- ・ 給食を残さず食べるなど、自分たちにもできることがたくさんある。
- ・ 地球が危機的な状況と分かったが、止める方法もあると分かってよかった。
- ・ 雨や台風は天気情報を見て準備し、地震は普段から備えることが大切と分かった。
- ・ 交代で勤務するマスター室をはじめ、テレビに映らないところでたくさんの社員が何度も準備と確認をしながら放送していることに驚いた。

局見学は、報道の現場を実際に見て、地上波テレビの高い信頼性と公共性を肌で感じてもらう機会になった。また、参加した児童だけの経験で終わらせず、放送を通じて広く発信することができた。



以上